

成長

演劇部 部長

演劇部は桜華祭等の校内公演や校外公演など、年間を通じて多くの公演に向けて日々練習に励んでいます。また、演劇に関する知識・感性・技術力の向上を目指して、定期的に学校外で開催されるワークショップにも参加しています。

昨年は、3月に阿見町かすみ公民館で「えんぴつと消しゴム、それからカッターナイフ」という劇を上演しました。苦労したことは、劇の舞台が『筆箱の中』であると観客に伝えるための舞台装置です。どうすれば文房具たちの世界観を表現できるのかを考え、一人ひとりが台詞を丁寧に読み取ることによって、劇に深みを与えることができたのではないかと思います。

また、桜華祭公演では、一年生の新入部員を加え、三月公演の劇を再演しました。部員全員で三月公演とは違った劇を創ろうと決め、新しい役を加えたり、表現の仕方を変化させたりしました。練習を通じて、観客に自分達が伝えたいものについて考えることができるようになったと思います。

公の大会となる夏の県南A地区演劇祭では、「はしご」という劇を公演しました。今までにない分野に挑戦することで、部員一人ひとりがセリフや人物の理解を深める大切さを再認識しました。また、台本に登場する役は何を伝えるためにその世界にいるのかという観点から考え、話し合いを重ねることで、部として成長することができたと思います。

12月に行った校内公演では、「つきゆびしたけど僕は笑顔」というコメディを上演しました。この劇で、新たに生徒による創作台本に挑戦しました。これまで培った台本理解の知識や表現技術をもとに、作者である演出家を中心に稽古に励みました。台本のタイトルの意味を伝え、最後の場面でお客さんを驚かせる展開に導くため、一致団結して劇を完成させることができました。

これまでの様々な公演や日々の稽古を通じて、仲間との「絆」と「感謝」を意識するようになりました。これらも部員一丸となって頑張っていこうと思います。